

第10号議案

社会資本整備総合交付金事業(河川改修)
 一級河川いたくらがわ板倉川 板倉町

着工年度
 評価理由

平成5年度
 再評価後5年経過

1. 事業の目的

本川は板倉町内を流下し、渡良瀬川へ合流する河川延長約4.6km、流域面積53.2km²の一級河川である。標高10m前後の低湿地帯に存在しているため幾度となく洪水被害を受けており、過去に渡良瀬川堤防や土地改良事業による排水路、排水機場などが整備されているが、十分な治水安全度は確保されず、未だ内水被害等に悩まされている。

平成5年度より流域内に建設されてきた板倉ニュータウン地区を含めた板倉川流域全体の治水安全度を向上させ、浸水被害の軽減を図るために本事業により河道拡幅、調節池及び排水機場の整備をおこなう。

平成14年7月9日(台風6号による被害状況)



位置図



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	いたくらまちおおあざえびせ 板倉町大字海老瀬 ~ いたくらまちおおあざいたくら 板倉町大字板倉	
区分	今回	前回(H17)再評価時
全体事業費	16,500百万円	23,500百万円
全体事業費増減の理由	事業計画見直しによる減少	
事業期間	H5 ~ H25	H5 ~ H25
事業内容	河川改修延長 6,340m 計画規模: 市街地1/30 農地1/10 計画流量 30m ³ /s 調節池容量 77万m ³ 排水機場3基	河川改修延長 6,340m 計画規模: 市街地1/30 農地1/10 計画流量 30m ³ /s 調節池容量 77万m ³ 排水機場3基

事業経緯

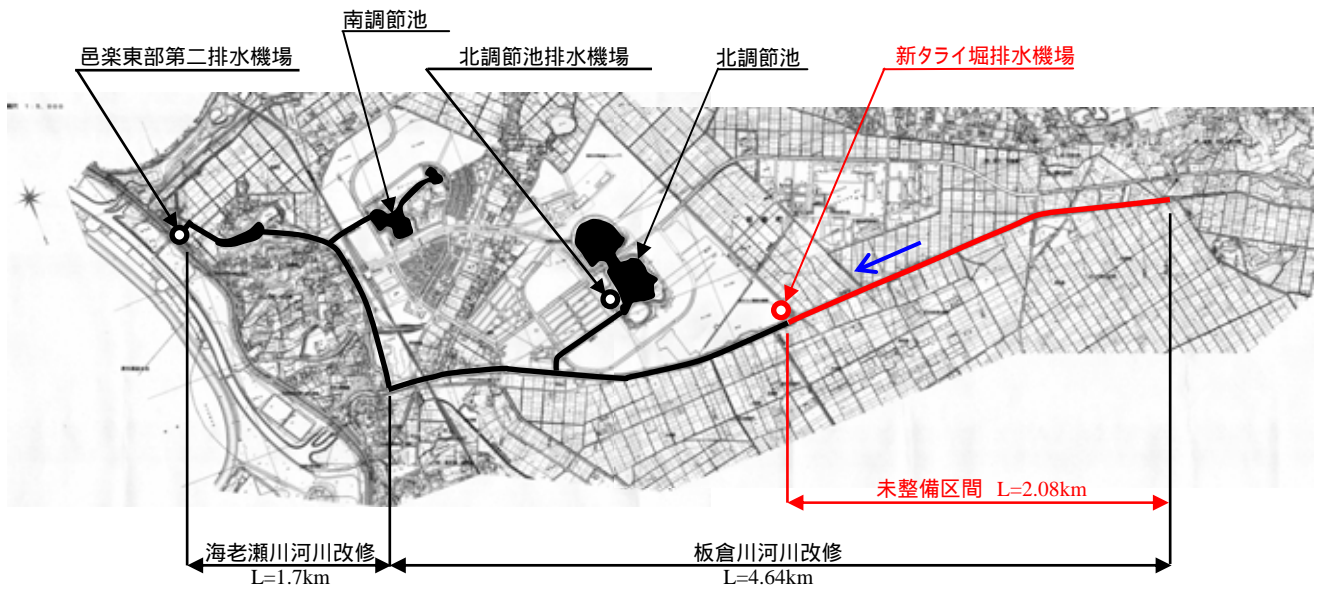
年度	主な経緯
H6	河川改修工事着工
H8	南調節池完成
H13	北調節池完成
H18	邑楽東部第二排水機場完成

進捗状況

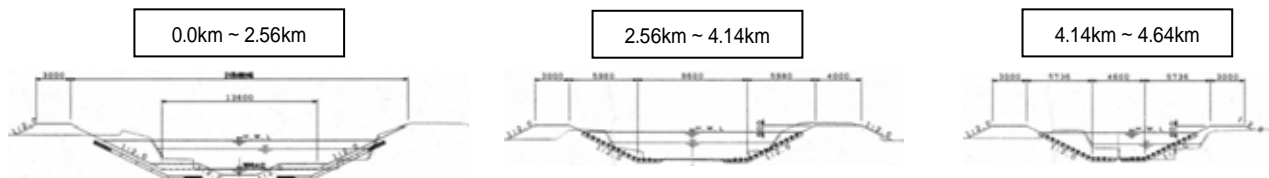
	全体計画	現在の進捗状況(進捗率)	前回評価時の進捗状況(進捗率)
事業費	16,500百万円	15,243百万円 (92.4%)	12,730百万円 (77.2%)
用地買収	342,000m ²	285,704m ² (83.5%)	265,675m ² (77.7%)
計画延長	6,340m	4,260m (67.2%)	3,690m (58.2%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

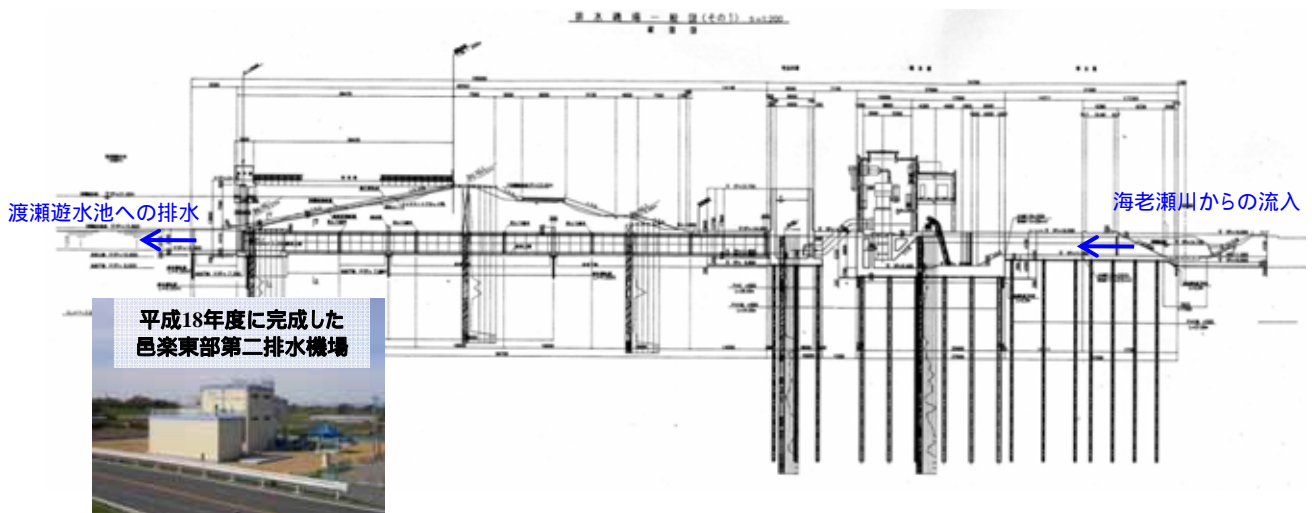
平面図



標準横断面図



邑楽東部第二排水機場



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

本川が合流する渡良瀬川の改修や遊水池整備のほか、土地改良事業における水路や排水機場の整備、一級河川指定後の局部的な河川整備などにより、着実に流域の治水安全度は高まっているものの、現在でも豪雨時の浸水被害は発生しており事業の必要性は変わっていない。また板倉ニュータウンについては平成21年度の用途区域変更によって新たに準工業地域が設けられており、本事業により地域の浸水被害を軽減させることは、住宅や農地の保全、交通の確保のほか、土地の高度利用や生産性の向上につながるため、より一層地域の治水安全度を高める必要がある。

板倉川浸水想定区域図(W=1/30)



板倉ニュータウン



東洋大学



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

低湿地帯という地理条件の下、河道拡幅、調節池、排水機場の整備による総合的な治水対策を実施しており、それらの施設を連携させることで、30年に1度発生すると予想される洪水に対して沿川地域の浸水被害の軽減が図られるため、現計画で事業を進捗することが最良の方法である。

今後、一層の効率的な事業実施を図るため、平成21年度から事業計画の見直しを実施しており、排水機場の運用方法改善による河道拡幅・護岸計画の見直しを行い、コスト縮減を図っている。

板倉川(改修済区間)



海老瀬川(改修済)



南調節池(整備済)



費用便益分析

		前回(H17)再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月			
基準年		平成17年		平成21年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	25,971,000	92.1%	16,543,000	89.1%		
	維持管理費	2,381,000	8.4%	2,033,000	10.9%		
	残存価値	151,000	0.5%	-	-		
費用合計(C): + -		28,201,000		18,576,000			
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益	13,953,000	34.8%	13,917,000	33.8%	氾濫面積A=1,190ha 浸水家屋N=1,500戸	
	農作物被害軽減便益	600,000	1.5%	502,000	1.2%		
	公共土木施設等被害軽減便益	23,623,000	58.9%	23,577,000	57.2%		
	営業停止被害軽減便益	0	0.0%	1,550,000	3.8%		
	応急対策費用軽減便益	1,942,000	4.8%	1,550,000	3.8%		
	残存価値	-	-	106,000	0.2%		
便益合計(B): + ~ +		40,118,000		41,202,000			
費用対効果分析(B/C)		1.42		2.22			

5. 事業が長期間要している理由は？

元々が長期計画

不測の事態により長期化

一定の治水効果をあげるためには、6,340mの河道改修が必要であり、また調節池や排水機場などの大規模な施設整備も必要なことから、長期計画となっている。

邑楽東部第二排水機場



北調節池



北調節池排水機場



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

- ・本事業は、河道改修や調節池・排水機場の整備など総合的な治水対策によって、未だ内水被害を受けている流域の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・現在までに板倉ニュータウン区域を含む下流工区が完了し、延長ベースで約7割の進捗が図られている。
- ・板倉ニュータウン内には昨年度新たに準工業地域が設けられ、住宅や農地の保全のほか土地の高度利用や生産性の向上、交通確保などのため、より一層治水安全度を高める必要があることから、事業継続とする。
- ・今後の実施にあたっては昨年度から事業計画の見直しに取り組んでおり、排水機場の運用方法改善による河道拡幅・護岸計画の見直しによってコスト縮減を図っている。
- ・今後は、見直し後の計画を基に改修事業を進め、平成25年度の完成を図りたい。